

2022年6月期 第2四半期 決算説明資料



証券コード1382

株式会社 ホーブ

2022年2月17日



会社概要

■ 会社名	株式会社ホーブ
■ 代表取締役社長	政場 秀
■ 設立	1987年6月
■ 本社所在地	北海道上川郡東神楽町
■ 資本金	4億2125万円
■ 発行済株式総数	762,000株
■ 従業員数	42人（連結）25人（個別）
■ 事業所	北海道本社／東京本部
■ 連結子会社	株式会社エス・ロジスティックス



事業内容

事業区分（セグメント）および事業内容

事業区分	事業内容
いちご果実・青果事業 (当社)	いちご果実（自社品種・その他いちご）、青果、 農業用資材等の仕入販売
種苗事業 (当社)	自社いちご品種、その他種苗の生産と販売
馬鈴薯事業 (当社)	種馬鈴薯の生産販売及び仕入販売 青果馬鈴薯の仕入販売等
運送事業 (株式会社エス・ロジスティックス)	運送業務

業績の概要



連結業績

(単位：百万円)

	2022.6期 第2四半期	2021.6期 第2四半期	増減額	増減率 (%)
売上高	1,340	1,502	△162	△10.8
売上総利益	368	300	68	22.8
営業利益	87	17	69	390.3
経常利益	88	19	68	346.7
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	68	16	52	314.5



セグメント別売上高

(単位：百万円)

	2022.6期 第2四半期		2021.6期 第2四半期	増減率 (%)
		構成比 (%)		
いちご果実・青果事業	1,161	86.7	1,363	△14.8
種苗事業	26	2.0	8	201.8
馬鈴薯事業	102	7.6	85	19.2
運送事業	49	3.7	45	8.9
連結	1,340	100.0	1,502	△10.8



セグメント別営業利益

(単位：百万円)

	2022.6期 第2四半期	2021.6期 第2四半期	増減率 (%)
いちご果実・青果事業	137	93	47.4
種苗事業	18	1	1170.3
馬鈴薯事業	9	4	89.4
運送事業	2	1	41.1
調整額※	△80	△83	—
連結	87	17	390.4

※調整額は主にどの部門にも帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

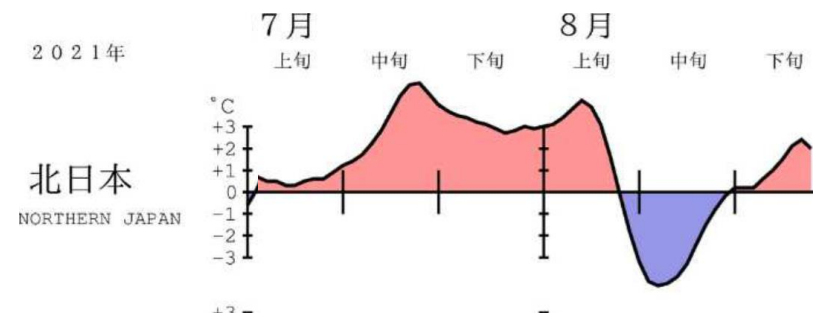
セグメント別の状況



いちご果実・青果事業—自社品種の出荷状況—

- 主力産地である北海道において、7月中旬頃から8月上旬にかけて猛暑日を連日記録するなど、過去に例のない暑さとなる。出荷数量のピークは例年並みとなったが、8月中旬以降の出荷数量が猛暑の影響で減少。
- 残暑が長引かなかつたため、株疲れからの回復は順調で、秋の出荷数量が前年より増加。

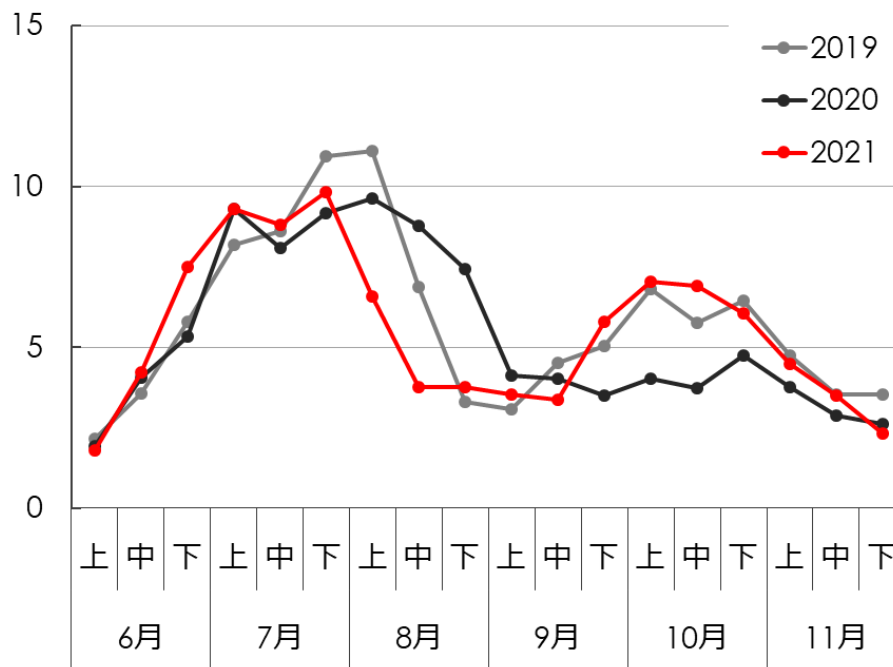
2021年7～8月の平均気温平年差



※気象庁ホームページより

(トン)

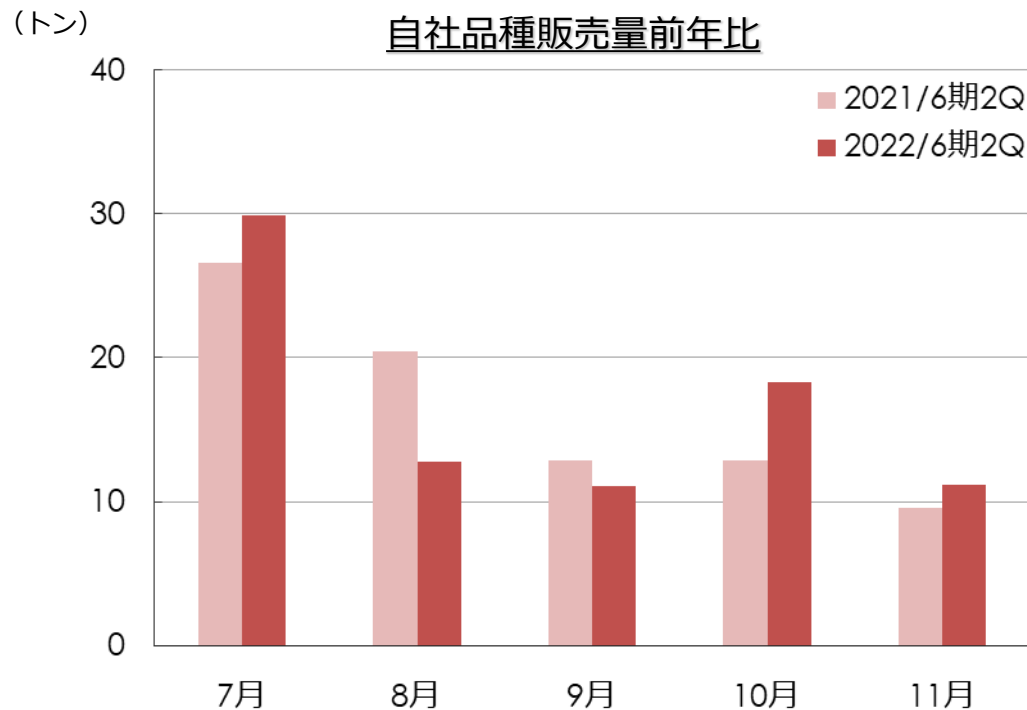
自社品種出荷量推移





いちご果実・青果事業—自社品種の販売状況—

- 自社品種「夏瑞／なつみずき」の認知度が着実に向上。
 - 百貨店の生食向けギフト販売の取扱数量が増加。
 - 「なつみずき」を使用したスイーツが定着し、業務用としての販売も好調に推移。
- 猛暑の影響で一時的な出荷数量の減少はあったものの、10～11月にかけての出荷数量が回復し、秋の販売数量を確保。

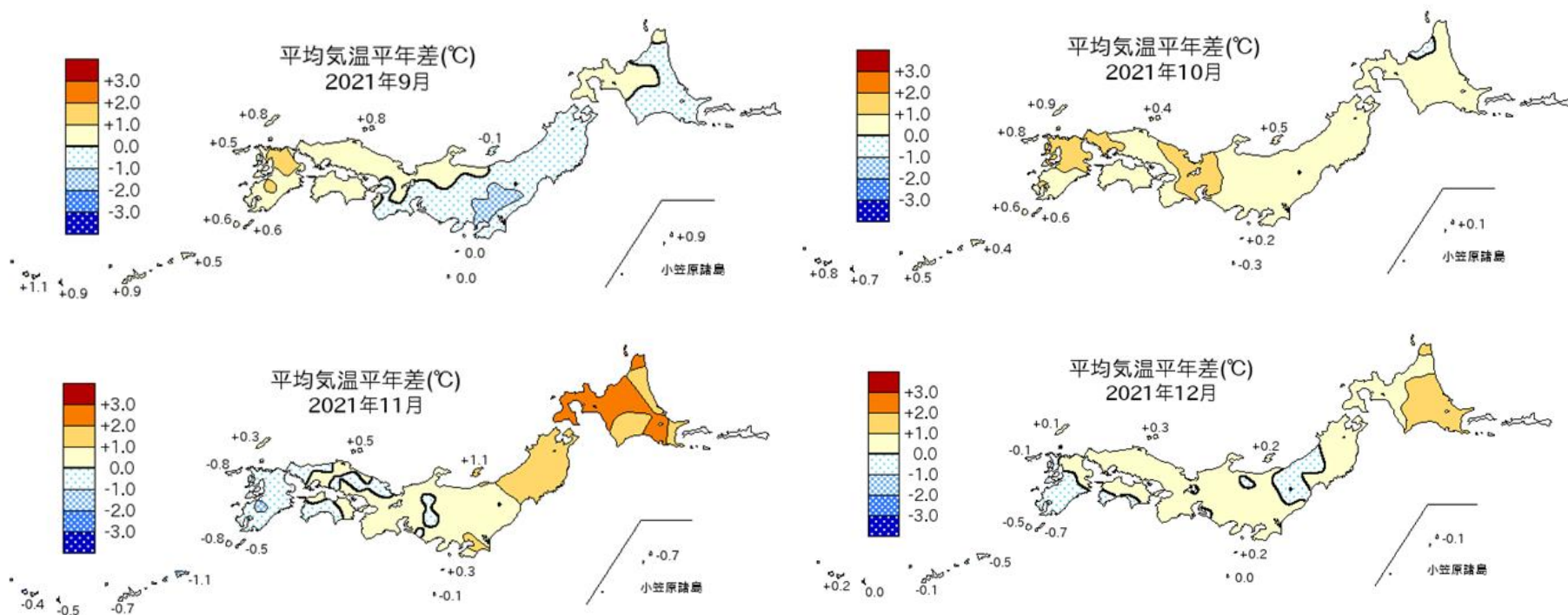




いちご果実・青果事業—クリスマス期の状況①—

- 残暑が長引くことがなく、促成いちごの花芽分化、定植は順調に進む。
- 大雨、台風などの目立った被害もなく、定植後の気象条件にも恵まれる。

2021年9～12月 平均気温平年比

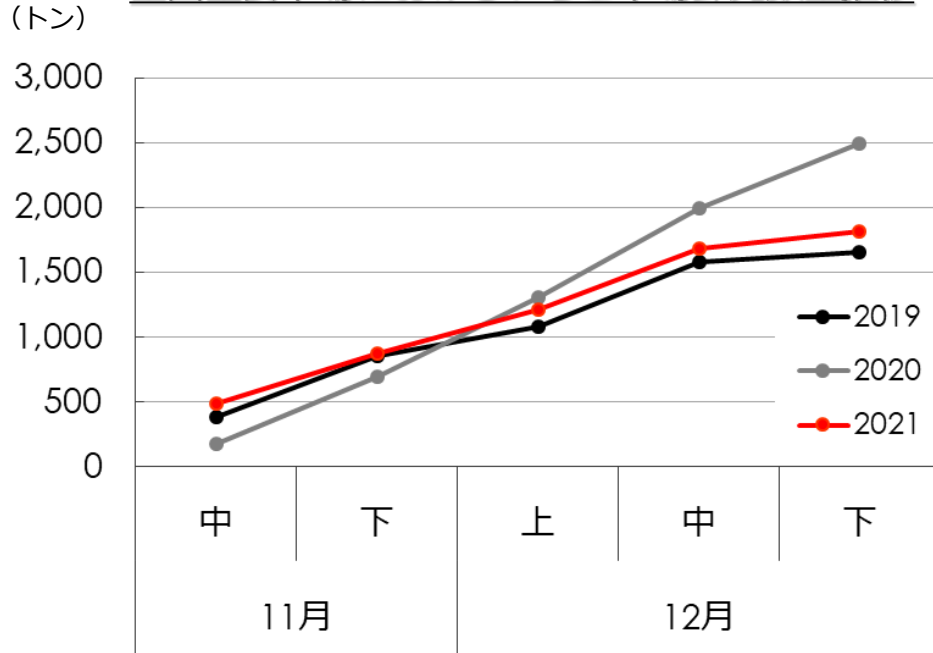




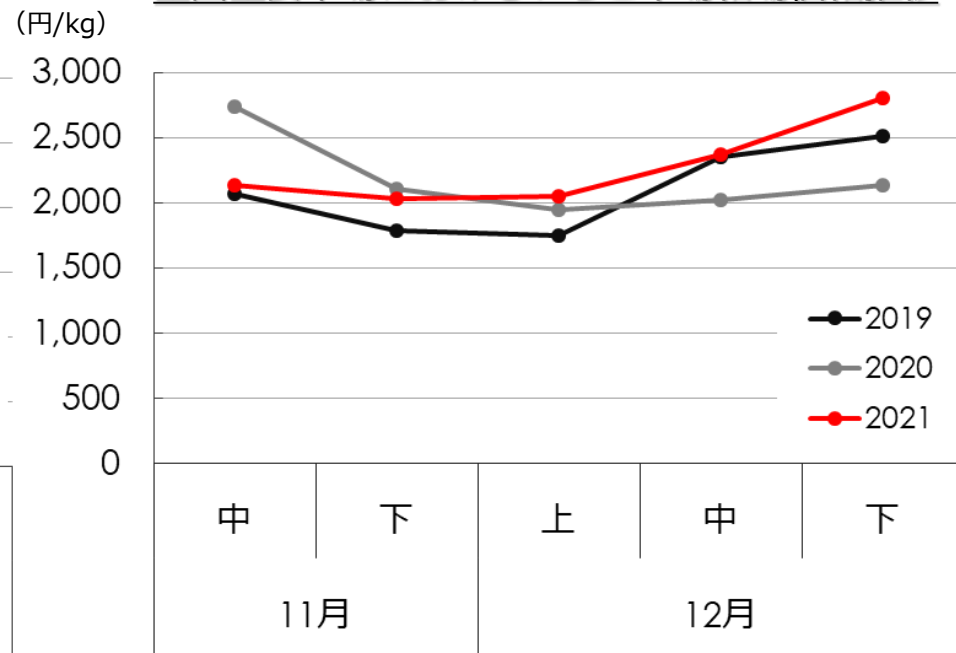
いちご果実・青果事業—クリスマス期の状況②—

- 促成いちごの生育が大幅に遅れた前年とは対照的に、全国的に順調に生育が進み、いちご果実の出荷も前倒し傾向となる。

全国主要市場におけるいちご市場卸売数量推移



全国主要市場におけるいちご市場相場価格推移



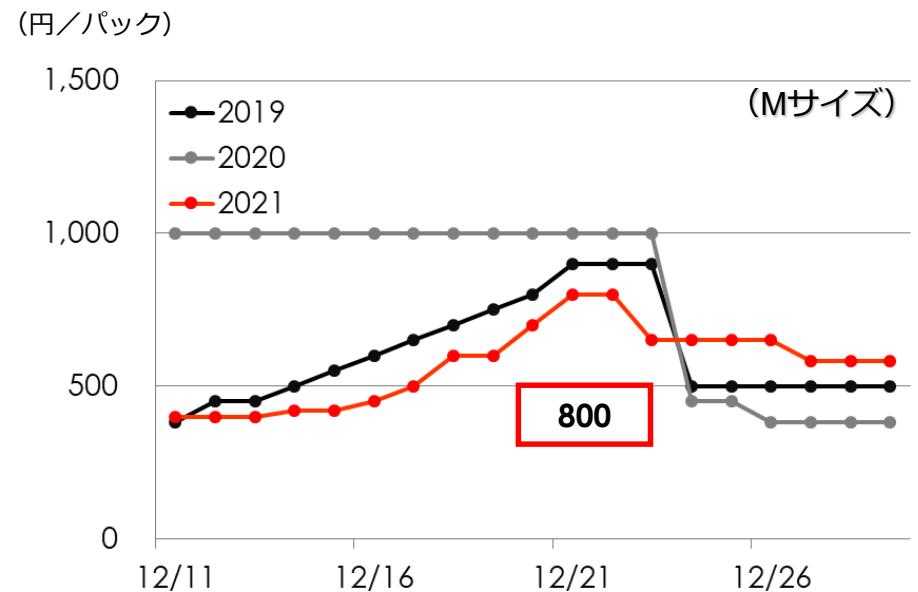
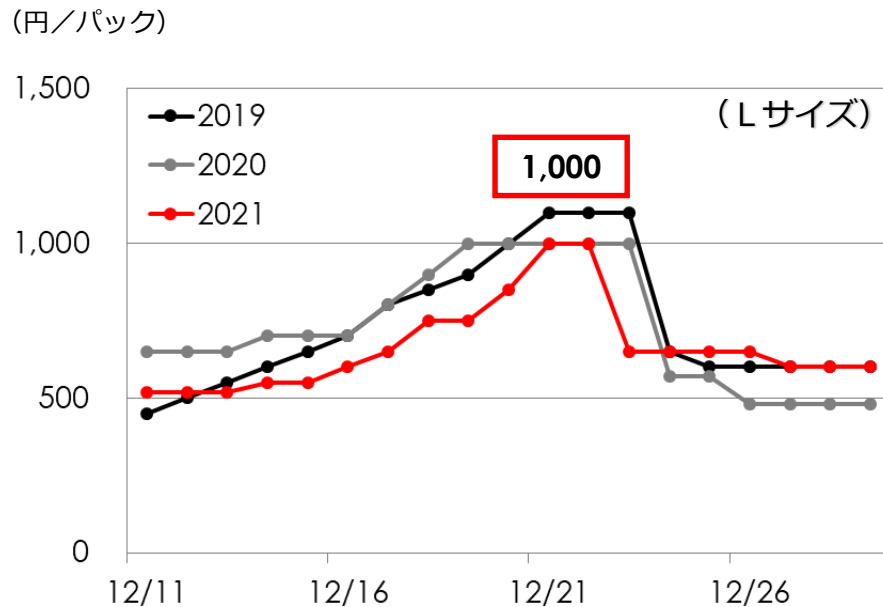
※農林水産省統計より



いちご果実・青果事業—クリスマス期の状況③—

- クリスマスにかけて、業務用サイズの市場への入荷数量は潤沢に推移。
- 業務用サイズの市場相場価格は前年よりも安値傾向となる。
- 利益圧縮の要因となっていた固定価格での販売を一部見直したことにより販売数量が減少したものの、利益は確保。

大田市場におけるいちご市場相場価格推移（業務用サイズ）

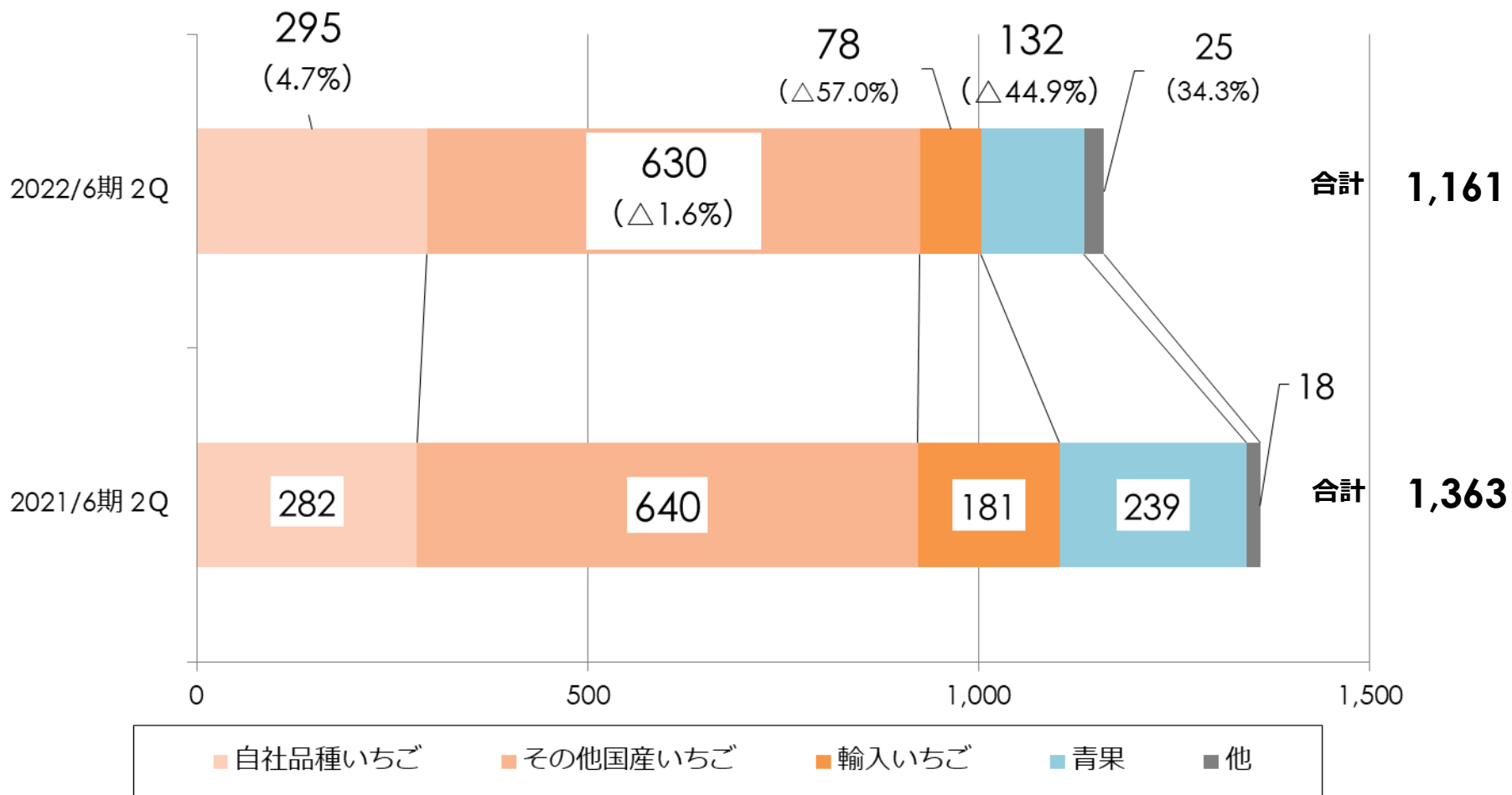




いちご果実・青果事業一品目別売上高

(単位：百万円)

(%：前年比増減率)

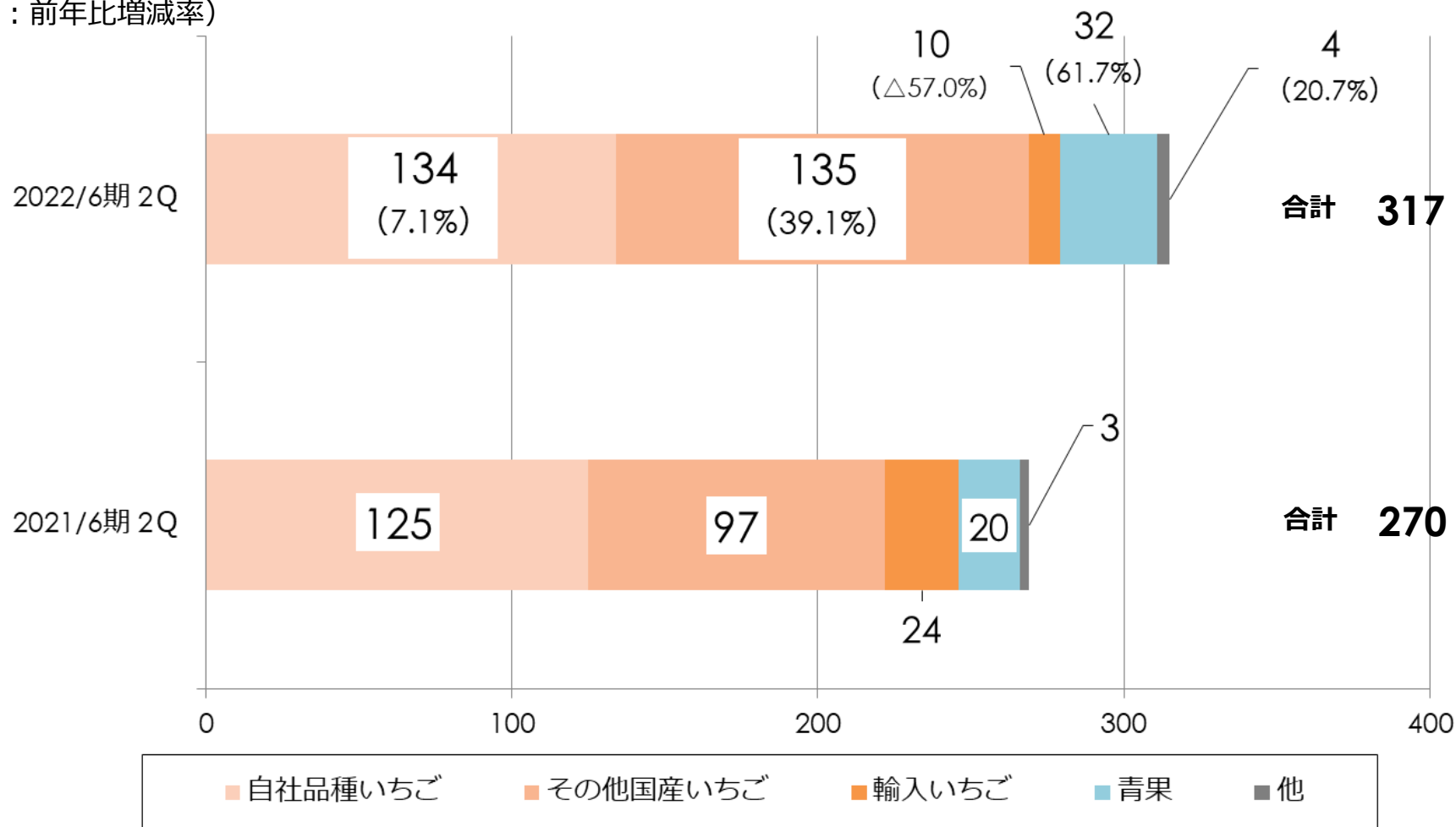




いちご果実・青果事業一品目別総利益一

(単位：百万円)

(%：前年比増減率)



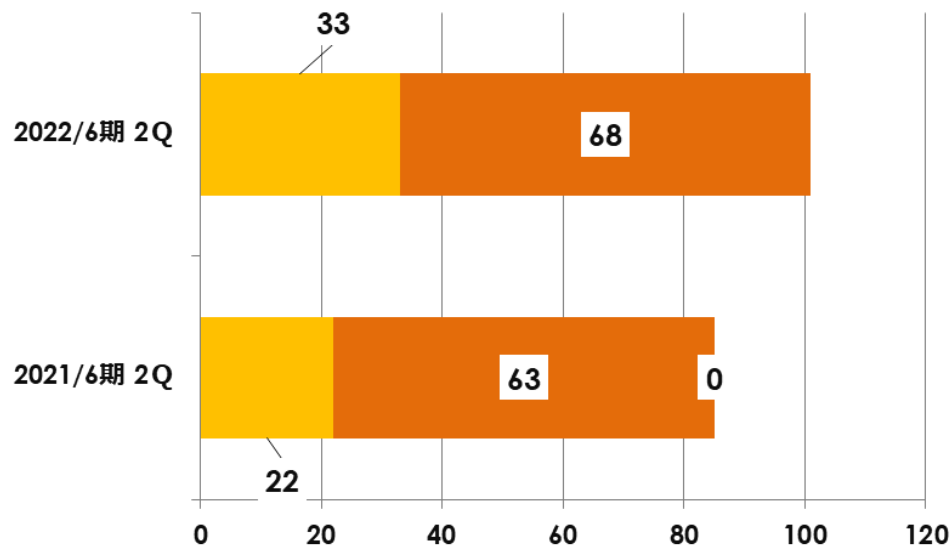


馬鈴薯事業

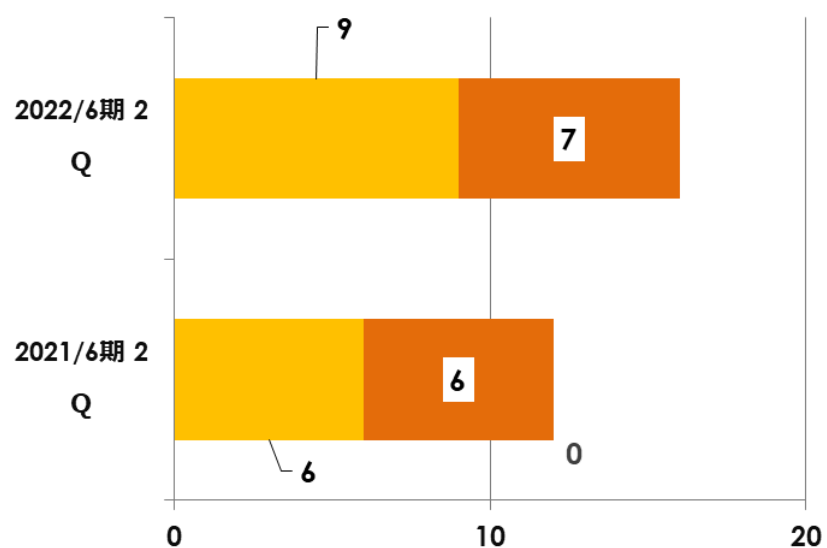
- 主力となる春作向け種馬鈴薯の生産地（北海道など）において、高温と干ばつの影響により生産量が大幅に減少。
- オリジナル品種を中心に販売数量の確保に努め、適正な仕入数量の管理を継続し、売上高、利益ともに増加。

(単位：百万円)

2Q馬鈴薯事業の売上高比較



2Q馬鈴薯事業の総利益比較



■ 種馬鈴薯 (オリジナル) ■ 種馬鈴薯 (一般) ■ 青果馬鈴薯等 ■ その他

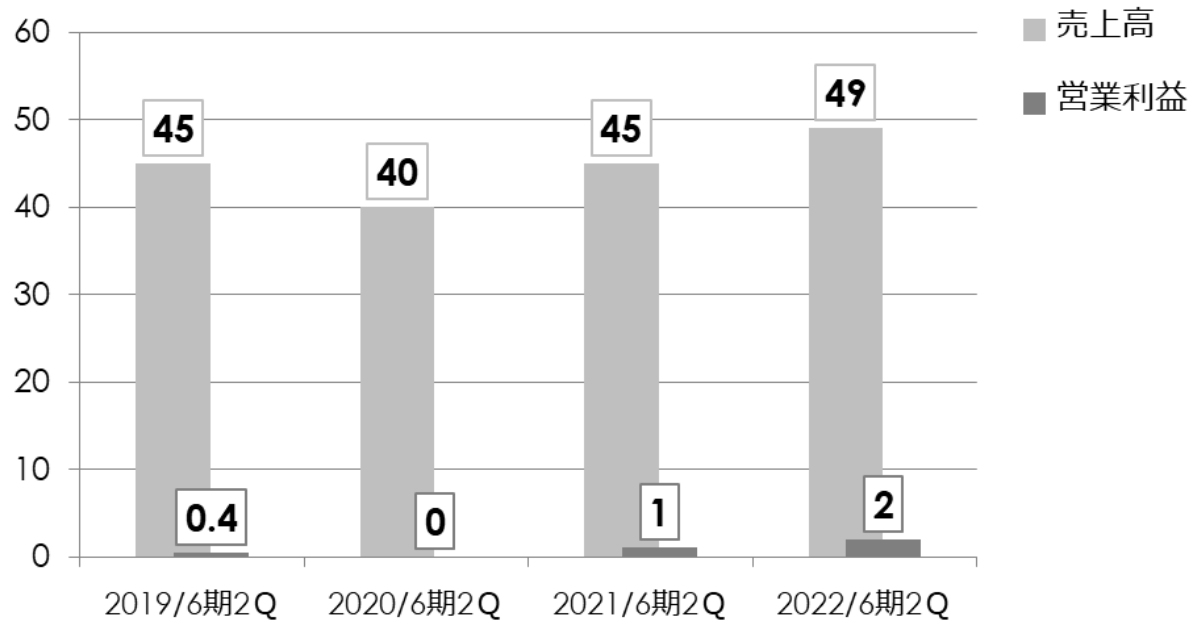


運送事業

- 新型コロナウイルス感染症の影響による一部配送休止はあったものの、自社配送の効率的な運用と経費削減に努めた結果、売上高、利益ともに増加。

(単位：百万円)

運送事業の売上高・営業利益の推移



※株式会社エス・ロジスティックスは平成25年12月19日付で、国土交通省指定の全国貨物自動車運送適正化事業実施機関より「安全性優良事業所(Gマーク)」の認定を受けております。



今後の対応

いちご果実・ 青果事業

- ・自社品種「夏瑞／なつみずき」の食味の良さを活かしたさらなるブランドの構築に向け、百貨店ギフト等を活用した全国的な販売展開。
- ・「コア」の収量性及び秀品率の高さを活かし、夏秋期の安定的な果実の供給。
- ・促成いちごの販売時期（主に12～5月）において、適正な仕入数量の管理を継続。市場相場価格の動向を勘案した価格設定の見直し。
- ・業務の効率化を図り、配送費や労務費などの経費抑制を継続。

種苗事業

- ・食味の良い「夏瑞／なつみずき」、収量性及び秀品率の高い「コア」の優位性を活かした新規産地の展開。
- ・弊社の育種開発力、栽培技術を活かした、国内、海外での種苗事業の強化。
- ・近年の猛暑等の気象変動に対応すべく、耐暑性に優れるいちご新品種の開発。

馬鈴薯事業

- ・海外オリジナル品種の優位性を活かした種馬鈴薯の販売強化。
- ・適正な数量の仕入管理、採算性を重視した販売を継続し、収益を確保。

運送事業

- ・新規荷主獲得に向けた営業強化による売上高向上。
- ・自社配送および提携業者を効率的に運用し、収益の向上を図る。



2022年6月期

連結業績通期の見通し

連結業績通期予想

(単位：百万円)

	2022.6期 通期予想	2021.6期 通期実績	前期比 増減額	前期比 増減率 (%)
売上高	2,668	3,039	△370	△12.2
営業利益	146	106	39	37.5
経常利益	146	109	37	34.2
親会社株主に 帰属する 当期純利益	121	108	13	12.2

* 上半期の連結業績と下半期の業績見込みを勘案し、当初の通期連結業績予想から予想数値を修正しております。